

## IV 教育及び研究

### 1 学部・大学院の概要(3つの方針)

#### 【学部】

#### ○文化学部

##### ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

#### (知識・理解)

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

#### (汎用的・実践的スキル)

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

#### (態度・志向性)

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

#### (総合的な学習経験と創造的思考力)

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

##### カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

#### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形

式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

## 2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。
- (2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。
- (3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。
- (4) この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

(履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

(教育方法)

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

### アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕

2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

## 入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

### ・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

### ・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学

ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

#### ・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部[文化総合系(夜間主コース)]が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

#### ・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

#### ・社会人選抜(A日程・B日程)

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

#### ・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

## ○看護学部

### ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 専門的知識、技術、科学的論理性及び倫理的判断に基づいて、保健・医療・福祉などのあらゆる場で看護を実践することのできる能力を有している。

(汎用的・実践的技能)

2. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重して、コミュニケーションを取りながら他者と関係性を築くことのできる能力を有している。
3. 地域の健康課題を予測し、リーダーシップを発揮して多職種と協働しながら健康課題を解決することのできる能力を有している。

(態度・志向性)

4. 看護専門職者としてのアイデンティティを培い、生涯にわたって専門性を高めることのできる能力を有している。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

5. 看護の質の向上に資する研究をすることができる基礎的な能力を有している。
6. 国際的及び学際的見地に立って看護学を理解することのできる能力を有している。
7. 看護の専門性を活かして、地域で生活する人々の健康と安全・安心な社会を創造することのできる基礎的な能力を有している。

## カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
- (4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

### 2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。
- (2) 看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え、看護技術の修得を目指した科目を置く。
- (3) 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指す。

した科目を置く。

- (4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)

- (1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
- (2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
- (3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
- (4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)

- (1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

## **アドミッション・ポリシー**

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

## 求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

## 入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

### ・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(小論文、面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

### ・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

### ・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

## ○社会福祉学部

### ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

### (知識・理解)

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

### (汎用的・実践的技能)

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

### (態度・志向性)

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

### (総合的な学習経験と創造的思考力)

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

## カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

### 2. 専門教育科目

#### (カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだどこころの理解科目」を置いて



いる。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

#### (履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

#### (教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

#### (評価)

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

### アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的スキルを教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

#### 求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

#### 入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

#### ・一般選抜(前期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

#### ・一般選抜(後期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

#### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

#### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

#### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

## ○健康栄養学部

### ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

#### (知識・理解)

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

(汎用的・実践的技能)

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

## カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

### 2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。
- (2) 専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
- (3) 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (4) 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。

- (5) 専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (6) 専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
- (7) この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

#### (履修方法・順序)

- (1) 基礎科目は、1年次に履修する。
- (2) 専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
- (3) 専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
- (4) 専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
- (5) 「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

#### (教育方法)

- (1) 専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル(栄養教諭)」を提示し、履修指導を行う。
- (2) 「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

#### (評価)

各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

### アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。

したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

#### 求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

## 入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

### ・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

## 【大 学 院】

### ○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

#### ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人-家族-地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

#### カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師(以下 CNS)コース、研究コース、及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

#### (構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目(大学院共通科目・専攻共通科目)」と「領域専門科目」の科目群をおく。
2. CNS コースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学の6領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む専門科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭(看護)専修免許に必要な科目をおく。

#### (順序性)

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するために CNS コース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目を学修するように配置し、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を獲得する科目を配置する。

#### (教育方法)

7. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNS コース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
9. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第 14 条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

#### (評価方法)

10. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
11. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

### アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

#### 求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探究する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

#### 入学者選抜の基本方針

博士前期課程の入学試験は、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の発展に寄与する基礎的能力と看護に対する専門職業人としての能力(看護に関する志向性を含む)について評価します。

専門科目: 基礎的理解力、科学的思考力、看護の専門的能力(専門的知識、基礎的実践能力)及び社会や健康に関わる課題に対する問題意識について評価します。

面接: 看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力について評価します。実践リーダーコースにおいては面接時に提出された研究計画書を活用します。

## ○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

### ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現や QOL の向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

### カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

#### (構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、がん看護学、成人看護学、小児看護学、精神看護学、家族看護学、地域看護学、在宅看護学、学校保健学、共創看護学、看護病態生理学、看護経営管理学等の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

#### (順序性)

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

#### (教育方法)

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論



文作成指導にあたる。

(評価方法)

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等(最終試験)を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

### アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と想像力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

### 入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学試験は、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力(看護の志向性を含む)と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験: 看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書: 研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価します。

## ○看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程

### ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士(看護学)とし、(DNGL: Disaster Nursing Global Leader)を付記した、学位を授与します。

- 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
- 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。

- グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

### カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄与する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「看護学の基盤に関する科目群」「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学に関する科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「災害看護学演習」「災害看護学実習」および「災害看護学に関する研究支援科目群」の6つの科目群によって構成する。
- 学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「災害看護学演習」および「災害看護学実習」の科目群に「インディペンデントスタディ」を科目として置く。
- 構成大学院(「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」)は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を行う。
- 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

### アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

- 災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
- 災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3(2021)年度から学生募集停止。

## ○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士前期課程

### ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

#### 1. 共通ディプロマ・ポリシー

- 1) 専攻領域における研究遂行にとって必要とされる学術的知識を有している。
- 2) 専攻領域以外の領域にわたる幅広く深い学術的学識を有している。
- 3) 地域社会の特性を踏まえて追究すべき研究課題を発見することができる。
- 4) 地域社会をシステムとして捉えた研究を実践することができる。

- 5) 設定した研究課題を科学的視点で捉え、結論を導出することができる。
- 6) 研究を通じて得られた知見や技術を口頭または論文の形で共有化することができる。
- 7) 対象とする研究課題を自律的に遂行することができる。
- 8) 学問の体系化への貢献とあわせて実践的研究を志向し、得られた成果を地域社会に還元することができる。
- 9) 研究倫理についての的確に理解・遵守し学術研究活動を行うことができる。

## 2. 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

### (1) 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

- 1) 生活・栄養の分野における専門的な知識を人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 地域における生活・栄養分野の課題を複雑系科学の視点で捉えるとともに、課題解決のための具体的方策を検証することができる。

### (2) 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

- 1) 社会福祉の分野における専門的な知識と技術を人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 地域における福祉分野の課題を科学的視点で捉えるとともに、ミクロ・メゾあるいはマクロの観点から課題解決のための具体的な方策を検証することができる。

### (3) 文化学領域 <修士(学術)>

- 1) 文化研究における専門的な知識と技術を、人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 設定した研究課題を人文科学的方法論または社会科学的方法論に則り検証することができる。

## カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

### 1. 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目(大学院共通科目・人間生活学研究科科目)」「栄養・生活学領域科目」「社会福祉学領域科目」「文化学領域科目」「英語・領域教育コース科目」「栄養・領域教育コース科目」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。
2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎」「地域・国際福祉」「介護・高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。
5. 栄養・領域教育コース科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
6. 英語・領域教育コース科目に「英語・国際文化研究」の科目群をおく。

(順序性)

7. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」(必修)と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(選択必修)を履修させる。

(教育方法)

8. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
9. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価方法)

10. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
11. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

## 2. 領域別カリキュラム・ポリシー

### (1) 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

### (2) 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

導会を実施する。

### (3) 文化学領域 < 修士(学術) >

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

#### (順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

#### (教育方法)

3. 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

## アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

### 求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

### 入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学選抜の出願区分として「一般」「社会人」及び「外国人留学生」をおく。選抜の基本方針は以下のとおりとする。

#### ・一般(入試)

本区分は、大学を卒業した人及び当該年度に大学を卒業見込みの人などを受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

筆記試験: 小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験: 「研究計画書」に基づく発表と質疑応答をおこない、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。

地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために生かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎知識があるか、などである。

#### ・社会人(入試)

本区分は、大学を卒業した人などで、企業、官公庁、教育機関、研究機関及びその他各種団体での在職経験を有するまたは社会活動経験のある人で、かつ、受験者や受験者の研究テーマに関して理解している個人が推薦する人を受験対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

#### ・外国人(入試)

本区分は、大学を卒業した人などで、日本国籍及び日本における永住資格を有しない人で、かつ「日本語能力試験(N2又は2級)」に合格した人を出願対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

## ○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士後期課程

### ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

#### 1. 共通ディプロマ・ポリシー

- 1) 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
- 2) 既存の知識や技術の応用に新たな視点を加え、知の創造に繋げることができる。
- 3) 人間生活に変革をもたらす政策開発ならびに意思決定への参画に繋がる研究を行うことができる。
- 4) 自己の研究を自立して展開していく態度と能力を有している。
- 5) 研究倫理に則り研究を完遂できる態度と能力を有している。

#### 2. 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

##### (1) 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

- 1) 栄養・生活の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 栄養・生活の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3) 高等教育機関における教授者として次世代の栄養・生活の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

## (2) 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

- 1) 社会福祉の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 社会福祉の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。
- 3) 高等教育機関における教授者として次世代の社会福祉の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

## (3) 文化学領域 <博士(学術)>

- 1) 文化の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 文化の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。
- 3) 高等教育機関における教授者として次世代の文化の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

## **カリキュラム・ポリシー**

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

### 1. 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

(評価方法)

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

## 2. 領域別カリキュラム・ポリシー

### (1) 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月におこない、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

### (2) 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。



### (3) 文化学領域 < 博士(学術) >

#### (順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

#### (教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

### アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識、基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

#### 求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

#### 入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」をおこない、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験: 専攻する領域における外国語(英語)の読解力、設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価する。

領域専門: 社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、これまで行ってきた研究の独創性、資料の完成度、発表の態度、提出され

た研究計画書との整合性及び、質疑応答について評価する。

口述試験:研究計画についての発表と質疑応答をおこない、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書:研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

## 2 受講者の状況

### 【学部】

#### (1) 共通教養教育科目

#### リテラシー科目

#### ○文化学部 文化学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	303	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	15
英語コミュニケーション I B	215	情報処理概論	174
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	93
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	174
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	22	ビジネスリテラシー	24
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	14	日本語表現法	0
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	22		

#### ○看護学部 看護学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	158	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	3
英語コミュニケーション I B	87	情報処理概論	35
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	13
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	74
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	2	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	1
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	3		

#### ○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	145	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	2
英語コミュニケーション I B	82	情報処理概論	1
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	27
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	78
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	3	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	2	日本語表現法	4
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	3		

#### ○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	78	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーション I B	52	情報処理概論	29
英語コミュニケーション I C	未開講	ITリテラシー	21
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	38
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	0
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	0		

## 教養基礎科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
科学と人間	19	法学	32
基礎化学	34	政治学	94
基礎生物学	205	経済学	115
物理と自然法則	1	倫理学	170
地球の科学	36	哲学	218
数学入門	6	文学	未開講
データサイエンス入門	40	基礎ジェンダー学	230
社会調査基礎論	未開講	心理学	260
日本国憲法	160		

## 課題別教養科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
生活と社会福祉	130	労働と人権	未開講
現代生活論	100	地域とグローバリゼーション	111
環境と健康と安全	32	家族関係論	211
自然災害と防災の科学	210	異文化理解海外フィールドワーク	18
平和論	44	人権教育論	67
現代人権論	60		
ジェンダーとキャリア	63		

## 健康・スポーツ科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	255	健康とヘルスプロモーション	85
健康スポーツ科学Ⅱ	257	栄養と健康	5
対人関係とメンタルヘルス	146		

## 域学共生科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
地域学概論	387	専門職連携論	27
土佐の歴史と文化	87	チーム形成論	63
土佐の経済とまちづくり	15	地域学実習Ⅰ	350
土佐の自然と暮らし	109	地域学実習Ⅱ	267
土佐の食と健康	233	域学共生実習	6

【学 部】

(2) 専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)

(単位:人)

授 業 科 目			受 講 者 数	授 業 科 目			受 講 者 数
文化学部 共通科目	リテラシー 科目	基礎演習	166	国際文化 領域	異文化理解Ⅲ	5	
		中国語基礎Ⅰ	102		国際日本学	33	
		中国語基礎Ⅱ	101		比較日本学	4	
		ドイツ語基礎Ⅰ	22		国際関係論	37	
		ドイツ語基礎Ⅱ	25		国際開発論	34	
		フランス語基礎Ⅰ	25		国際文化専門演習Ⅰ	30	
		フランス語基礎Ⅱ	25		国際文化専門演習Ⅱ	28	
		日本語Ⅰ	未開講				
		日本語Ⅱ	1				
		情報処理演習	179				
		文献調査論	82				
		基礎読書法	73				
		エッセンシャル 科目	文化哲学		155	日本語学 領域	日本語史
	文化人類学		151	日本語音声学・音韻論	82		
	文化と権利		155	日本語学講読	110		
	文化と裁判		84	日本語文章構成論	60		
	公共哲学		147	国語教育学講読Ⅰ	48		
	民俗学		143	国語教育学講読Ⅱ	26		
	文化と経済		148	日本語教育学概論	35		
	日本文学概論		119	日本語教育教材論	11		
	言語学概論		130	日本語学専門演習Ⅰ	30		
	日本語学概論		101	日本語学専門演習Ⅱ	30		
	グローバルスタディー(～2018)		1	日本文学 領域	基礎古典		53
	グローバル平和論		146		日本文学史(古典)		34
	社会調査論		62		日本文学史(近代)		31
	域学共生フィールドワーク		3		古典文学基礎講読Ⅰ		69
	文化学課題研究ゼミナールⅠ		140		古典文学基礎講読Ⅱ		23
	文化学課題研究ゼミナールⅡ		139		古典文学講読Ⅰ		51
	文化学課題研究ゼミナールⅢ		141		古典文学講読Ⅱ		41
	文化学課題研究ゼミナールⅣ	161	近代文学講読		98		
	形成 カリ ア 科目	キャリアデザイン論	182		現代文学講読	56	
		キャリア形成論	181		中国文学史	49	
		企業実習	39		中国文学講読(散文)	99	
文化学部 専門科目	英語学 領域	英語学概論	27		地域文化 領域	地域文化論	71
		比較言語研究	19			日本思想史	43
		対照言語学	14			日本文化論	85
		言語教育実践論Ⅰ	8			土佐地域文化資源論(方言)(～2018)	3
		言語教育実践論Ⅱ	7			地域文化資源論Ⅰ	70
		英語文法論	74			地域文化資源論Ⅱ	80
		英語ライティングⅠ	26	文化政策論		114	
		英語ライティングⅡ	13	男女共同参画社会論		45	
		英語音声学	28	地域防災論		139	
		英語スピーキングⅠ	10	住文化論		115	
		英語スピーキングⅡ	14	地域文化専門演習Ⅰ		20	
		英語学専門演習Ⅰ	25	地域文化専門演習Ⅱ		22	
		英語学専門演習Ⅱ	29	地域づくり 領域		地域づくり論	87
		国際文化 領域	英文化・文学史			52	地域産業論
	英文化・文学論		48		地域分析論	92	
	米文化・文学史		33		地方自治論	55	
	米文化・文学論		58		NPO論	97	
	異文化理解Ⅰ		85		地域づくりフィールドスタディ	54	
	異文化理解Ⅱ		37		地域づくり専門演習Ⅰ	19	
				地域づくり専門演習Ⅱ	25		
	文化学部 専門科目				言語文化系	基礎古典	53
日本文学史(古典)						34	
文化学部 専門科目				言語文化系	日本文学史(近代)	31	
					古典文学基礎講読Ⅰ	69	
文化学部 専門科目				言語文化系	古典文学基礎講読Ⅱ	23	
					古典文学講読Ⅰ	51	
文化学部 専門科目				言語文化系	古典文学講読Ⅱ	41	
					近代文学講読	98	
文化学部 専門科目				言語文化系	現代文学講読	56	
					中国文学史	49	
文化学部 専門科目				言語文化系	中国文学講読(散文)	99	
					中国文学講読(韻文)	33	
文化学部 専門科目				言語文化系	日本文学専門演習Ⅰ	31	
					日本文学専門演習Ⅱ	35	
文化学部 専門科目				言語文化系	書道	24	

(その2)

(単位:人)

		授業科目		受講者数			授業科目		受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	121	文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	86
			観光文化論Ⅱ	73				文化と統治システム	79
			景観文化論	121				社会秩序と法	45
			観光と自然環境	128				犯罪と法	116
			観光文化フィールドスタディⅠ	15				情報化社会と法文化	102
			観光文化フィールドスタディⅡ	17				地域社会と法文化	63
			観光フィールド専門演習Ⅰ	36				現代法文化専門演習Ⅰ	8
			観光フィールド専門演習Ⅱ	21				現代法文化専門演習Ⅱ	10
		観光まちづくり領域	観光学総論	124			生活法文化領域	生活と法文化	62
			観光まちづくり論Ⅰ	51				災害と法	120
	観光まちづくり論Ⅱ		未開講	ワーク・ライフ・バランスと法	16				
	観光産業論(～2018)		5	労働契約と法文化	42				
	観光産業論Ⅰ		120	社会保障と法文化	84				
	観光産業論Ⅱ		10	家族関係と法文化	45				
	観光企画論		67	生活法文化専門演習Ⅰ	6				
	観光まちづくりフィールドスタディⅠ		17	生活法文化専門演習Ⅱ	10				
	観光まちづくりフィールドスタディⅡ		38						
	観光産業専門演習(～2018)		1						
	観光まちづくり専門演習Ⅰ	37							
	観光まちづくり専門演習Ⅱ	22							

○看護学部 看護学科

(その1)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
専門 基礎 科目	医学の世界	83	看護 基礎 科目	看護 援助 学	症状と看護	85
	生化学	83			看護援助の動向と課題	未開講
	栄養学	83			ふれあい看護実習	83
	薬理学	未開講			看護基盤実習	81
	微生物学	83			看護実践能力開発実習 I	未開講
	人体の構造 I	83		看護 管理 学	看護システム論	84
	人体の構造 II	84			看護サービス論	80
	人体の機能 I	83			看護教育論	未開講
	人体の機能 II	86			看護管理の動向と課題	未開講
	人体のしくみの乱れ I	83			チーム医療実習	78
	人体のしくみの乱れ II	84	看護管理実習	80		
	心のしくみ	83	看 急 護 性 学 期	急性期看護論	84	
	診断学	88		急性期看護援助論	79	
	治療学総論	84		回復期看護援助論	84	
	病態と治療 I	84		急性期看護の動向と課題	未開講	
	病態と治療 II	85		急性期看護実習	78	
	病態と治療 III	未開講	看 慢 性 学 期	慢性期看護論	85	
	母性学(～2021)	84		慢性期看護援助論	79	
	小児と疾患	79		終末期看護援助論	79	
	公衆衛生学	86		慢性期看護の動向と課題	未開講	
	健康管理論	79		慢性期看護実習	78	
	保健統計学	84	看 護 学 老 人	老人看護学総論	未開講	
	疫学	79		老人の健康と看護	85	
	地域保健政策	80		老人看護援助論	84	
	生命の科学と倫理	58		老人看護の動向と課題	8	
	医療史	6	看 護 臨 床 科 目	精 神 看 護 学	精神看護学総論	84
	社会保障と看護	未開講			精神の健康と看護	84
	心理学と心理的支援	43			精神看護援助論	79
	行動科学	12			精神看護の動向と課題	1
	保健行動論	13			精神看護実習	79
人間工学	27	小 児 看 護 学	小児看護学総論	85		
在宅医療	6		小児の健康と看護	79		
医療と経営	16		小児看護援助論	79		
助産学	15		小児看護の動向と課題	3		
助産診断論	15		小児看護実習	79		
看 護 基 礎 科 目	基 礎 看 護 学	看護学総論	83	母 性 看 護 学	母性看護学総論	84
		人間と看護	83		母性看護対象論	84
		健康と看護	83		母性の健康と看護	未開講
		環境と看護	83		母性看護援助論	79
		看護研究方法論	79		母性看護の動向と課題	未開講
	看護哲学と倫理	80	母性看護実習	78		
	看 護 援 助 学	生活と看護	83	助 産 看 護 学	助産看護学総論	8
		生活援助論Ⅲ(～2021)	85		助産看護診断論	8
		生活援助論	83		助産技術論 I	8
		看護過程論	84		助産技術論 II	8
		援助関係論	83		助産看護援助論	8
		フィジカルアセスメント	83		助産看護管理論	8
		治療援助論 I(～2021)	84		助産看護の動向と課題	8
		治療援助論 II(～2021)	86		助産看護実習 I	8
	治療援助論	未開講	助産看護実習 II	8		

(その2)

(単位:人)

		授 業 科 目	受 講 者 数	授 業 科 目	受 講 者 数	
看 護 臨 床 科 目	在 宅 看 護 学	在宅看護学総論	82	総 合 科 目	グローバル社会と看護Ⅰ	83
		在宅看護対象論	79		グローバル社会と看護Ⅱ	3
		在宅看護援助論	80		異文化理解看護フィールドワーク	5
		在宅看護リエゾン論	未開講		看護地域フィールドワーク	61
		在宅看護の動向と課題	3		看護学の動向と課題	8
		在宅看護実習	80		看護セミナーⅠ	83
		地域看護学総論	84		看護セミナーⅡ	5
	地 域 看 護 学	地域の健康と看護	79		看護セミナーⅢ	1
		地域看護援助論	79		看護セミナーⅣ	79
		地域看護の動向と課題	未開講		看護セミナーⅤ	79
保 学 健 校	学校保健	17	臨床看護論Ⅰ(人間の自立とQOL)	8		
	養護概説	17	臨床看護論Ⅱ(家族と健康)	12		
総 合 科 目	看護研究	80	臨床看護論Ⅲ(子どもの発達と健康)	38		
	看護と政策	80	臨床看護論Ⅳ(慢性の病と生活)	3		
	がん看護論	79	臨床看護論Ⅴ(健康と病気の探究)	4		
	総合看護実習	80	臨床看護論Ⅵ(看護と倫理的課題)	21		
	総合看護実習Ⅰ	未開講	精神看護実践論	2		
	総合看護実習Ⅱ	未開講	小児看護実践論	7		
	家族看護実習	未開講	老人看護実践論	7		
	看護実践能力開発実習	80	看護実践論Ⅰ	未開講		
	看護実践能力開発実習Ⅱ	未開講	看護実践論Ⅱ	未開講		
	バイオロジカルナーシング	12	看護実践論Ⅲ	未開講		
	治療と看護	未開講	看護実践論Ⅳ	未開講		
	災害と看護	58	医学と看護の統合	80		
	災害看護実践論	5	最新実践看護講座Ⅰ	4		
			最新実践看護講座Ⅱ	3		



○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
基本科目	福祉対象入門	75	ソーシャルワーク実践科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	72	
	福祉援助入門	76		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	未開講	
	社会福祉入門演習	75		相談援助実習(～2020)	74	
	社会福祉基礎演習	75		ソーシャルワーク実習Ⅰ	34	
	心理学と心理的支援	77		ソーシャルワーク実習Ⅱ	未開講	
	社会学と社会システム	77		ソーシャルワーク実習Ⅲ	未開講	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	75		事例研究法	18	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	76		実践記録法	18	
	社会福祉史	70		チームアプローチ	6	
	介護技術	16		スーパービジョン	5	
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	75	地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	72	
	社会保障論Ⅱ	75		地域福祉論Ⅱ	73	
	公的扶助論	73		地域福祉活動	4	
	障害者福祉論	72		国際福祉論	75	
	児童・家庭福祉論	71		コミュニティソーシャルワーク	39	
	高齢者福祉論Ⅰ	75		福祉NPO論	47	
	高齢者福祉論Ⅱ	73		子育て支援論	8	
	精神保健福祉論Ⅱ(～2020)	23	虐待防止論	57		
	精神保健福祉の原理	12	社会復帰支援科目	ケアマネジメント論	50	
	精神保健福祉制度論	未開講		ケアマネジメント演習	37	
	福祉行財政と福祉計画(～2020)	79		ケアプラン策定法	5	
	福祉サービスの組織と経営	81		就労支援サービス(～2020)	64	
	権利擁護論	67		精神科リハビリテーション学(～2020)	35	
	更生保護制度	66		精神障害リハビリテーション論	未開講	
保健医療サービス	72	精神保健福祉実践科目		精神保健福祉援助演習(～2020)	17	
女性福祉論	38		精神保健福祉援助演習Ⅰ	未開講		
医療福祉論	55		精神保健福祉援助演習Ⅱ	未開講		
からだとこころの理解科目	医学概論		81	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	22	
	精神医学Ⅰ		24	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	17	
	精神医学Ⅱ		24	精神保健福祉援助実習Ⅰ	17	
	精神保健学Ⅰ	31	精神保健福祉援助実習Ⅱ	17		
	精神保健学Ⅱ	26	介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	12	
	発達と老化の理解Ⅰ	22		介護の基本Ⅱ	21	
	発達と老化の理解Ⅱ	18		介護の基本Ⅲ	18	
	認知症の理解Ⅰ	25		コミュニケーション技術	11	
	認知症の理解Ⅱ	21		生活支援技術Ⅰ	12	
	障害の理解Ⅰ	19		生活支援技術Ⅱ	11	
	障害の理解Ⅱ	21		生活支援技術Ⅲ	21	
	こころとからだのしくみⅠ	12		生活支援技術Ⅳ	21	
	こころとからだのしくみⅡ	11		生活支援技術Ⅴ	18	
	ソーシャルワーク基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		77	介護過程Ⅰ	11
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		77		介護過程Ⅱ	21	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		72		介護過程Ⅲ	21	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		72		介護過程Ⅳ	18	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		72		介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	11
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		未開講	介護総合演習Ⅱ		21	
ソーシャルワークの理論と方法(精神)		未開講	介護総合演習Ⅲ		18	
相談援助の理論と方法Ⅳ(～2020)		80	介護総合演習Ⅳ		15	
精神保健福祉援助技術総論(～2020)		1	介護実習Ⅰ		11	
精神保健福祉援助技術各論(～2020)		23	介護実習Ⅱ		21	
面接技法		58	介護実習Ⅲ		18	
医療ソーシャルワーク論		55	医療的ケアⅠ		18	
ソーシャルワーク実践科目		相談援助演習Ⅲ(～2020)	78		医療的ケアⅡ	15
		相談援助演習Ⅳ(～2020)	74		総合科目	福祉研究法入門
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	72	社会調査の基礎(～2020)	80		
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	72	社会福祉調査の基礎	未開講		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	未開講	社会福祉専門演習Ⅰ	79		
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	未開講	社会福祉専門演習Ⅱ	79		
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	未開講	社会福祉専門演習Ⅲ	70		
	相談援助実習指導Ⅲ(～2020)	74	社会福祉専門演習Ⅳ	70		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	72				

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
科基礎	健康栄養学基礎	42	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	44
	健康栄養学応用	45		栄養教育論Ⅱ	39
社会・環境と健康	地域健康論	39		栄養教育論Ⅲ	39
	介護論	39		栄養教育論実習Ⅰ	39
	食と介護	39		栄養教育論実習Ⅱ	39
	保健医療福祉論	39		学校栄養指導論Ⅰ	15
	地域医療論	9		学校栄養指導論Ⅱ	15
	公衆衛生学	39		臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ
	環境衛生学実習	39	臨床栄養学Ⅱ		39
健康情報論実習	42	臨床栄養学Ⅲ	39		
人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	42	臨床実践栄養学		39
	生化学Ⅱ	43	臨床栄養学実習Ⅰ		39
	生化学実験	44	臨床栄養学実習Ⅱ	39	
	人体の構造と機能Ⅰ	42	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	48
	人体の構造と機能Ⅱ	43		公衆栄養学Ⅱ	39
	臨床医科学	10		地域公衆栄養学実習	39
	疾病論Ⅰ	44	給食経営管理論	給食経営管理論	44
	疾病論Ⅱ	44		給食計画論	43
	運動生理学	44		給食経営管理実習Ⅰ	39
	生体科学実験・実習	44		給食経営管理実習Ⅱ	39
食べ物と健康	食品学	42	演習 総合	管理栄養士総合演習Ⅰ	39
	食品学実験Ⅰ	42		管理栄養士総合演習Ⅱ	41
	食品学実験Ⅱ	44	臨地実習	給食経営管理臨地実習	39
	食材学	42		臨床栄養学臨地実習Ⅰ	39
	食品の栄養素と機能	43		臨床栄養学臨地実習Ⅱ	39
	食品衛生学	44		地域公衆栄養学臨地実習	39
	食品衛生学実験	44		地域実践栄養学臨地実習	未開講
	フードシステム学	1	他の	企業実習	未開講
	調理学	42		健康栄養フィールドワーク	44
	調理学実習Ⅰ	42	研 課 究 題	卒業研究	41
	調理学実習Ⅱ	44			
	調理学実習Ⅲ	13			
	調理科学実験	9			
	栄養基礎	基礎栄養学	43		
基礎栄養学実験		44			
栄養学 応用	応用栄養学Ⅰ	44			
	応用栄養学Ⅱ	44			
	応用栄養学実習	44			
	ライフステージ栄養学	44			

【学 部】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授 業 科 目		受講者数	授 業 科 目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	45	教職に関する専門教育科目	教育実習 I	15
	教育基礎理論	27		教育実習 II	15
	教師論	80		養護実習	13
	教育社会学	64		学校栄養教育実習	4
	発達心理学	44		教職実践演習(中・高)	16
	教育心理学	54		教職実践演習(養護)	13
	特別支援教育概論	69		教職実践演習(栄養)	4
	教育課程論	66		国語科教育法 I	14
	道德教育論	69		国語科教育法 II	14
	特別活動論	46		国語科教育法 III	10
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	61		国語科教育法 IV	11
	情報通信技術を活用した教育の理論と方法	未開講		英語科教育法 I	10
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	65		英語科教育法 II	10
教育相談及びキャリア教育の理論と方法	75	英語科教育法 III	5		
		英語科教育法 IV	5		

【 大学院 】

○看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

(その1)

(単位:人)

		授 業 科 目	受講者数			授 業 科 目	受講者数
共 通 科 目	大 学 院 共 通 科 目	研究と倫理	0	慢 性 看 護 学 領 域	慢性看護論	0	
		教育学特論	未開講		慢性看護対象論	0	
		教育心理学特論	1		慢性看護方法論Ⅰ	0	
		ジェンダー論	未開講		慢性看護方法論Ⅱ	1	
		臨床倫理	4		慢性疾患診断治療学Ⅰ	1	
		グローバルヘルス論	4		慢性疾患診断治療学Ⅱ	未開講	
		ケア論	0		慢性看護課題研究	1	
		看護マネジメント論	4		慢性看護学実践演習Ⅰ	0	
					慢性看護学実践演習Ⅱ	1	
	専 攻 共 通 科 目	看護理論と実践	9		慢性看護学実践演習Ⅲ	0	
		看護学基盤論	4		慢性看護学実践演習Ⅳ	1	
		看護研究と実践	9		慢性看護学実践演習Ⅴ	1	
		看護倫理	9		成人看護学研究方法Ⅰ	0	
		看護サービス管理論	6		成人看護学研究方法Ⅱ	0	
		看護コンサルテーション論	5		ク リ テ ィ カ ル ケ ア 看 護 学 領 域	クリティカルケア看護論Ⅰ	0
		フィジカルアセスメント特論	5			クリティカルケア看護論Ⅱ	0
		病態生理学	5			クリティカルケア看護方法論Ⅰ	0
		臨床薬理学	5			クリティカルケア看護方法論Ⅱ	1
		こころの発達	6			クリティカルケア看護方法論Ⅲ	0
		看護教育論Ⅰ	8	クリティカルケア看護方法論Ⅳ		1	
		看護教育論Ⅱ	9	クリティカルケア診断治療学Ⅰ		0	
		看護教育学専門演習	0	クリティカルケア診断治療学Ⅱ		1	
		看護教育学研究方法Ⅰ	0	クリティカルケア看護課題研究		1	
		看護教育学研究方法Ⅱ	0	クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ		0	
		データ分析方法論Ⅰ	13	クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ		1	
		疫学研究方法論	11	クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ		1	
		保健医療政策と経済Ⅰ	12	クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ		0	
		保健医療政策と経済Ⅱ	11	クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	1		
		看護学の動向と展望	12	母 性 看 護 学 領 域	女性健康看護論	2	
		最新専門看護実践講座Ⅰ	9		女性健康支援論	1	
		最新専門看護実践講座Ⅱ	9		子育て包括ケアシステム論	1	
		インディペンデントスタディ	0		女性の健康危機マネジメント論	1	
		母性看護フィールド演習Ⅰ	1				
		母性看護フィールド演習Ⅱ	0				
		母性看護学研究方法Ⅰ	1				
		母性看護学研究方法Ⅱ	0				
領 域 専 門 科 目	共 創 看 護 学 領 域	看護理論と研究Ⅰ	4	小 児 看 護 学 領 域	小児看護論	1	
		看護理論と研究Ⅱ	7		小児看護対象論	1	
		学際的研究方法	0		小児看護方法論Ⅰ	1	
		データ分析方法論Ⅱ	0		小児看護方法論Ⅱ	0	
		看護学英語	0		小児診断治療学Ⅰ	1	
		共創看護学セミナー	0		小児診断治療学Ⅱ	0	
		バイオメトリクス看護学演習	0		小児看護課題研究	0	
		看護学研究方法ⅠA	2		小児看護学実践演習Ⅰ	1	
		看護学研究方法ⅠB	1		小児看護学実践演習Ⅱ	0	
		看護学研究方法ⅡA	2		小児看護学実践演習Ⅲ	0	
	看護学研究方法ⅡB	1	小児看護学実践演習Ⅳ		1		
	が ん 看 護 学 領 域	がん看護論	2		小児看護学実践演習Ⅴ	0	
		緩和ケア特論	2		小児看護学研究方法Ⅰ	0	
		がん看護方法論Ⅰ	2	小児看護学研究方法Ⅱ	0		
		がん看護方法論Ⅱ	1				
		がん看護方法論Ⅲ	1				
		がん病態生理学	2				
		がん診断治療学	3				
		がん薬理学	未開講				
		がん看護課題研究	0				
		がん看護学実践演習Ⅰ	2				
		がん看護学実践演習Ⅱ	1				
		がん看護学実践演習Ⅲ	0				
がん看護学実践演習Ⅳ		1					
がん看護学実践演習Ⅴ	1						

(その2)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数		
領域 専門科目	老人看護学領域	老人看護論	1	地域看護学領域	地域看護論	0	
		老人看護対象論	0		地域ケアシステム論	0	
		老人看護方法論	0		地域看護展開論	0	
		老人ケアシステム論	0		地域看護課題研究	0	
		老人看護展開論Ⅰ	0		地域フィールド演習Ⅰ	0	
		老人看護展開論Ⅱ	0		地域フィールド演習Ⅱ	0	
		老年病診断治療学Ⅰ	1		地域看護学研究方法Ⅰ	0	
		老年病診断治療学Ⅱ	未開講		地域看護学研究方法Ⅱ	0	
		老人看護課題研究	1		災害・国際看護学領域	災害看護論	2
		老人看護学実践演習Ⅰ	0			グローバル社会看護論	2
		老人看護学実践演習Ⅱ	0	災害・国際看護方法論		2	
		老人看護学実践演習Ⅲ	1	感染症看護セミナー		1	
		老人看護学実践演習Ⅳ	1	環境衛生看護セミナー		0	
		老人看護学実践演習Ⅴ	1	共生社会看護セミナー		0	
		精神看護学領域	精神看護論	1		人道支援看護セミナー	4
	精神看護対象論		1	災害看護管理セミナー		4	
	精神看護方法論Ⅰ		1	災害看護活動論(準備期)		10	
	精神看護方法論Ⅱ		3	環境防災学		5	
	精神看護展開論Ⅰ		0	災害・国際看護学研究方法Ⅰ	2		
	精神看護展開論Ⅱ		0	災害・国際看護学研究方法Ⅱ	4		
	精神看護展開論Ⅲ		1	看護管理学領域	看護管理論	2	
	精神看護展開論Ⅳ		2		システム経営管理論	1	
	精神診断治療学Ⅰ		未開講		看護管理展開論	1	
	精神診断治療学Ⅱ		4		看護管理の動向と展望	1	
	精神看護課題研究		3		看護管理課題研究	0	
	精神看護学実践演習Ⅰ		1		看護管理学実践演習Ⅰ	0	
	精神看護学実践演習Ⅱ		1		看護管理学実践演習Ⅱ	0	
	精神看護学実践演習Ⅲ		3		看護管理学実践演習Ⅲ	0	
	精神看護学実践演習Ⅳ		3		看護管理学研究方法Ⅰ	1	
	精神看護学実践演習Ⅴ	3	看護管理学研究方法Ⅱ		0		
	家族看護学領域	家族看護論	0	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1	
		家族看護対象論	0		老人看護ケア研究	0	
		家族看護方法論Ⅰ	9		がん看護ケア研究	0	
		家族看護方法論Ⅱ	5		小児看護ケア研究	1	
		家族看護実践論Ⅰ	1		慢性看護ケア研究	0	
		家族看護実践論Ⅱ	0		クリティカルケア研究	3	
		家族療法	6		臨床看護管理研究	2	
		家族ケアの開発	1		臨床看護教育研究	2	
		家族看護課題研究	1		母性・助産看護ケア研究	0	
		家族看護学実践演習Ⅰ	0		臨床看護学専門演習	2	
		家族看護学実践演習Ⅱ	0	臨床看護学研究方法Ⅰ	2		
		家族看護学実践演習Ⅲ	1	臨床看護学研究方法Ⅱ	2		
		家族看護学実践演習Ⅳ	1	地域保健学領域	地域ケア研究	0	
		家族看護学実践演習Ⅴ	1		学校保健研究	1	
		家族看護学研究方法Ⅰ	0		家族ケア研究	4	
家族看護学研究方法Ⅱ	0	在宅ケア研究	2				
在宅看護論	1	保健学研究	0				
在宅看護学領域	在宅看護方法論Ⅰ	1	災害・国際看護ケア研究	2			
	在宅看護方法論Ⅱ	3	地域保健学専門演習	2			
	在宅看護方法論Ⅲ	0	地域保健学研究方法Ⅰ	4			
	在宅ケアシステム論	0	地域保健学研究方法Ⅱ	4			
	在宅看護展開論Ⅰ	1					
	在宅看護展開論Ⅱ	1					
	在宅療養診断治療学Ⅰ	1					
	在宅療養診断治療学Ⅱ	未開講					
	在宅リエゾン看護論	5					
	在宅リエゾン看護演習	0					
	在宅看護課題研究	0					
	在宅看護学実践演習Ⅰ	1					
	在宅看護学実践演習Ⅱ	1					
	在宅看護学実践演習Ⅲ	0					
	在宅看護学実践演習Ⅳ	0					
在宅看護学実践演習Ⅴ	0						

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	7	専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	理論看護学Ⅱ	7		精神看護学Ⅱ	1
	看護学研究方法Ⅰ	7		家族看護学Ⅰ	0
	看護学研究方法Ⅱ	7		家族看護学Ⅱ	0
	看護倫理学	7		在宅看護学Ⅰ	0
	イノベーション看護学	5		在宅看護学Ⅱ	0
	国際看護学	7		地域看護学Ⅰ	0
	医学研究方法論	1		地域看護学Ⅱ	0
	インディペンデントスタディ	0		学校保健学Ⅰ	0
	プロフェッショナルライティング	2		学校保健学Ⅱ	0
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	1	科 支 研 目 援 究	災害・国際看護学Ⅰ	0
	共創看護学Ⅱ	0		災害・国際看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	3		看護病態生理学Ⅰ	1
	がん看護学Ⅱ	1		看護病態生理学Ⅱ	0
	成人看護学Ⅰ	1		看護経営管理学Ⅰ	1
	成人看護学Ⅱ	0		看護経営管理学Ⅱ	0
	小児看護学Ⅰ	3		看護学特別研究Ⅰ	12
	小児看護学Ⅱ	0		看護学特別研究Ⅱ	10
	老人看護学Ⅰ	0		看護学特別研究Ⅲ	0
	老人看護学Ⅱ	0			

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講	イン デ イ ペ ン デ ン ト 学 修 科 目 群	災害看護ゼミナールA	0	
	理論看護学	未開講		災害看護ゼミナールB	0	
	危機管理論	0		災害看護ゼミナールC	0	
	環境防災学Ⅰ	0		災害看護ゼミナールD	0	
	環境防災学Ⅱ	未開講		災害看護ゼミナールE	0	
	グローバルヘルス	未開講		インディペンデントスタディⅠ	0	
	災害法制度と政策論	0		インディペンデントスタディⅡ	0	
	専門職連携実践論	0		インディペンデントスタディⅢ	0	
	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	未開講		インディペンデントスタディⅣ	0	
	災害医療学	0		インディペンデントスタディⅤ	0	
	災害心理学	0	科 目 群 研 究 支 援 災 害 看 護	災害看護研究ゼミナール	未開講	
	災害と文化	未開講		実践課題研究	0	
	災害社会福祉学	0		災害看護研究デベロップメント	2(1)	
	Professional writing	未開講		博士論文	8(1)	
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	0				
	Program writing (Program Proposal writing skill)	0				
	災害看護学の専門科目群	災害看護学総論		未開講		
		災害看護活動論Ⅰ(急性期)		未開講		
		災害看護活動論Ⅱ(亜急性期)		未開講		
災害看護活動論Ⅲ(復旧・復興)		未開講				
災害看護活動論Ⅳ(備え)		未開講				
災害看護グローバルコーディネーション論		0				
災害看護リーダーシップ・管理論		0				
災害看護倫理		0				
災害看護理論構築	0					
インターンシップⅠ	2(1)					
インターンシップⅡ	1(1)					

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

(単位:人)

		授業科目		受講者数			授業科目		受講者数	
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理		4	文化学領域科目	日本文化	日本文化論Ⅰ		2	
		教育学特論		未開講			日本文化論Ⅱ		未開講	
		教育心理学特論		4			日本語文化論		2	
		ジェンダー論		未開講			文学Ⅰ		3	
		臨床倫理		1			文学Ⅱ		未開講	
		グローバルヘルス論		1			文学Ⅲ		未開講	
		ケア論		0		英語文化	英語文化論Ⅰ		3	
		看護マネジメント論		0			英語文化論Ⅱ		0	
	人間生活学研究科	研究方法論Ⅰ		3			英語文化論Ⅲ		0	
		研究方法論Ⅱ		5			英語言語文化論特論Ⅰ		0	
		研究方法論Ⅲ		4			英語言語文化論特論Ⅱ		0	
		データ解析論		3			国際日本学		0	
		環境解析論		未開講		英語・領域教育コース科目	英語・国際文化研究	英語学特論Ⅰ		未開講
		地域スポーツ論		未開講				英語学特論Ⅱ		未開講
健康リハビリテーション論		5	英語教育学特論Ⅰ		未開講					
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論		3	英語教育学特論Ⅱ				未開講	
		食品製造学特論		未開講	英語圏文学特論Ⅰ				未開講	
		食物科学論		3	英語圏文学特論Ⅱ				未開講	
		食物科学実践演習		未開講	英語圏文化特論Ⅰ				未開講	
人間栄養学	栄養学特論		未開講	英語圏文化特論Ⅱ				未開講		
	臨床栄養学特論		1	異文化理解特論				未開講		
	健康動態論		未開講	英語言語文化論特論Ⅰ				未開講		
	栄養疫学論		1	英語言語文化論特論Ⅱ				未開講		
生活学・栄養学	栄養・生活特論Ⅰ		2	英語教育実践研究Ⅰ				未開講		
	栄養・生活特論Ⅱ		1	英語教育実践研究Ⅱ				未開講		
	栄養・生活統計論		未開講	栄養・領域教育コース科目	食物科学			食品生化学特論		3
	環境生態論		2			食品製造学特論		未開講		
社会福祉学領域科目	福祉基礎	社会福祉原論				6	食物科学論		3	
		福祉リハビリテーション論				未開講	食物科学実践演習		未開講	
		ソーシャルワーク論				未開講	人間栄養学	栄養学特論		未開講
		社会保障論				4		臨床栄養学特論		1
	福祉行財政論		未開講		食生活論Ⅰ			未開講		
	地域・国際福祉	地域福祉論Ⅰ			5	食生活論Ⅱ			未開講	
地域福祉論Ⅱ			未開講		食生活論演習			未開講		
国際福祉論Ⅰ			5		健康動態論			未開講		
国際福祉論Ⅱ			未開講		栄養疫学論		1			
高齢者・福祉	介護福祉論Ⅰ		4		生活学・栄養学	栄養・生活特論Ⅰ		2		
	介護福祉論Ⅱ		未開講			栄養・生活特論Ⅱ		1		
	高齢者福祉論		4			栄養・生活統計論		未開講		
	障害者福祉	障害者福祉論		未開講		環境生態論		2		
精神保健福祉論			1	科指研 目導究		栄養・生活学課題研究演習		1		
精神科ソーシャルワーク論			未開講			社会福祉学課題研究演習		6		
児童・家庭福祉		児童・家庭福祉論Ⅰ			6	文化学課題研究演習		1		
	児童・家庭福祉論Ⅱ		未開講		/					
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ		未開講						
		地域文化論Ⅱ		2						
		地域文化論Ⅲ		未開講						
		観光文化論Ⅰ		3						
		観光文化論Ⅱ		3						
		観光文化論Ⅲ		未開講						

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数		
科共 目通	研究デザイン	2	専門 科目	領域 科目 文化学	地域文化学Ⅰ	0	
	研究倫理	未開講			地域文化学Ⅱ	0	
専門 科目	栄養・ 生活学 領域 科目	地球環境解析学	研究 指導 科目		言語文化学Ⅰ	0	
		環境生態学			0	言語文化学Ⅱ	0
		人間栄養学			0	栄養・生活学特別研究Ⅰ	2
		食品機能学			0	栄養・生活学特別研究Ⅱ	3
		健康動態学			1	栄養・生活学特別研究Ⅲ	0
		介護福祉学			0	社会福祉学特別研究Ⅰ	0
	社会 福祉学 領域 科目	障害者福祉学			0	社会福祉学特別研究Ⅱ	2
		児童・家族福祉学			0	社会福祉学特別研究Ⅲ	3
		地域ソーシャルワーク学			0	文化学特別研究Ⅰ	0
		国際福祉政策学			0	文化学特別研究Ⅱ	0
		福祉リハビリテーション学			0	文化学特別研究Ⅲ	0

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの



### 3 科目等履修生・特別聴講学生の状況

#### (1) 科目等履修生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
近代文学講読	1		
国語科教育法Ⅱ	1		
地域文化資源論Ⅰ	1		

#### (2) 特別聴講学生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
災害看護活動論(準備期)	2		
環境防災学	2		

#### 4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

##### (1) 教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	20	14	15
		中一種免(英語)	9	9	5
		高一種免(英語)	9	9	5
		中一種免(国語)	11	5	10
		高一種免(国語)	11	5	10
	教員就職者数		13	7	7
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	11	9	13
		一種免(養護)	11	9	13
	教員就職者数		7	5	6
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	10	9	4
		一種免(栄養)	10	9	4
	教員就職者数		2	3	0
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免(看護)	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	0	1	0
		中専修免(英語)	0	1	0
		高専修免(英語)	0	1	0
		栄教専修免	0	0	0
合 計	免許状取得者数(実人数)		42	34	33
	教員就職者数		22	15	13

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

##### (2) 国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受 験 日	区 分	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率
看 護 師	令和5年2月12日	新 卒	80	80	100.0%
		既 卒	0	0	
保 健 師	令和5年2月10日	新 卒	72	70	97.2%
		既 卒	1	0	0.0%
助 産 師	令和5年2月9日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	0	0	
社会福祉士	令和5年2月5日	新 卒	62	54	87.1%
		既 卒	27	13	48.1%
精神保健福祉士	令和5年2月4日 令和5年2月5日	新 卒	17	16	94.1%
		既 卒	1	1	100.0%
介護福祉士	令和5年1月29日	新 卒	14	14	100.0%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和5年2月26日	新 卒	40	37	92.5%
		既 卒	1	1	100.0%

**(3) 専門看護師・認定看護管理者合格状況**

(単位:人)

専門看護分野名	合格者数
がん看護	1
急性・重症患者看護	2
小児看護	2
精神看護	1
家族看護	3
在宅看護	1
老人看護	2
認定看護管理者	1

## 5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

### (1) 学位等授与状況

#### ○博士

(単位:人)

研究科名	博士	
	令和4年度	累計
看護学研究科(博士後期課程)	1	38
看護学研究科(博士課程)	0	7
人間生活学研究科(博士後期課程)	2	13
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合計	3	108

#### ○修士

(単位:人)

研究科名	修士	
	令和4年度	累計
看護学研究科(博士前期課程)	21	329
人間生活学研究科(博士前期課程)	6	194
合計	27	523

### 【学位授与者一覧】

#### ○博士

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和 5年 3月20日	博士(看護学)	小澤 若菜	心不全患者の重症化に関連している要因の探求
令和 5年 3月20日	博士(社会福祉学)	笹村 聡	地域ケア会議における作業療法士の連携コンピテンシー
令和 5年 3月20日	博士(社会福祉学)	恒吉 眞希	障害者施設利用者との相互関係に着目した介護職員の「演じる行為」

#### ○修士

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	田中 陽子	壮年期がん患者と配偶者が行う子どもとの情報共有に関する決断
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	稲田 佳奈	災害時医療における看護師の意思決定と影響要因
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	乾 由美	医療処置が必要な高齢者への訪問看護師による在宅移行支援
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	今中 与主安	療養型病院に入院中の高齢者におけるImpaired Skin Integrity

## ○修 士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	岩本 幸大	表情解析ソフトウェアで推定するインフォームド・コンセントにおける情報の理解度
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	岩本 佐苗	退院支援における病棟看護師の役割認知
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	梅原 朋美	女性技能実習生の妊娠に関する情報 ～セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から～
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	大西 由華	日常ケア場面におけるICU看護師の葛藤
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	加藤 晶子	家族を介護する男性介護者の社会的ネットワーク
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	川谷 美智子	急性期病院で認知症高齢者のケアをする看護師の葛藤
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	小越 美紀	訪問看護師による医療的ケア児を育児する母親の自己効力感を高めるケア
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	後藤 麻友	境界性パーソナリティ障害の看護において精神科病棟看護チームが発揮するチームレジリエンス
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	佐野 みずほ	目標管理における看護スタッフの主体性とその影響要因
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	竹崎 陽子	壮年期成人における重症化した糖尿病足病変の症状体験
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	西山 由加	看護チームの心理的安全性に影響を及ぼす看護師長のリーダーシップ行動
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	藤ノ井 鴻介	長期入院経験のある統合失調症をもつ人に対して精神科訪問看護師が行う臨床判断
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	町田 友里	精神障害者の被災後の生活環境の変化によるストレス
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	Mutiara Syagitta	Nurses' Workload During Coronavirus Disease (COVID-19) Outbreak in Bandung, West Java, Indonesia
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	横関 紗衣	保健室登校をしている学童期の子ども们的ストレンスを高める養護教諭の支援
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	吉岡 あゆみ	認知症治療病棟に入院した高齢者のリロケーションにおける看護ケア
令和 5年 3月20日	修士(看護学)	依岡 美里	看護師の専門的コミュニケーションスキルとしての沈黙
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	中村 俊介	脳卒中者の感覚障害と他者との会話 ―当事者研究―
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	上杉 麻理	特別養護老人ホームに勤務する生活相談員の介護経験の活用 ―ショートステイ業務における在宅支援を通して―

## ○修 士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和 5年 3月20日	修士(生活科学)	Tian Ganlin	野菜由来成分の抗アレルギー作用
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	山本 芹楽良	スクールソーシャルワークにおける学校アセスメントの意義と課題 —中学校での不登校支援に向けて—
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	Luo Xiwen	不登校問題とレジリエンスの関係性 —心理的变化を引き起こす社会資源の活用—
令和 5年 3月20日	修士(社会福祉学)	和田 万洋	認知症高齢者に対する介護職員の意図的な関わり方 —おむつ交換時の介護職員の意識と抵抗された際の対応—

## (2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)	部 局 内 訳
令和5年3月20日	地域共生推進士	27	文化学部13名、看護学部9名、社会福祉学部5名

## (3)日本語教員授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
令和5年3月20日	日本語教員	7

## (4)履修証明書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
-	履修証明書	-

※令和4年度は開講せず

## (5)大学賞・学長賞授与状況

### 【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より高い目標、そして向上心と責任感をもって学業に取り組むとともに、周囲の人々と協働関係を築き物事を成し遂げ、特に優秀な成績を修めた。
看護学研究科	人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士後期課程	5	1	入学時より一貫して高い目標を持って学業に取り組み、仕事や家庭の傍ら、研究に対しても真摯な態度により成果を上げ、優秀な成績を修めた。

### 【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	内田 実里 川原 千怜 松田 萌日	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生。
		3	石川 桃帆 芝 杏奈 西尾 帆乃夏	
		2	空岡 真理奈 松田 鈴 千頭 紗綾	
看護学部	看護学科	4	多田 帆乃夏 中塔 乙紀	
		3	繁田 佳奈 三原 千廣	
		2	秋山 優香 遠藤 菜央	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	大熨 真 名賀石 真衣	
		3	小笠原 杏樹 東谷 柚香	
		2	植田 愛唯 森岡 ふみ	

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
健康栄養学部	健康栄養学科	4	伊藤 志音里	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生。
		3	橋本 紗希	
		2	宇野 奈津子	

### 【学長賞】

団体名(人数)	功績	学部	氏名
活輝創生実行委員会	活輝創生実行委員会の代表として、コロナ禍において思うような活動ができない中、メンバーが学内で活動を続けられるよう、定期的に全体会を開催し、活動再開に向けた準備を進め、加えて、主たる活動場所である集落活動センター「たいこ岩」との連絡調整役としてコミュニケーションをとり続けた。その結果、感染が下火になった時には速やかに活動を再開させ、コロナ禍にあっても、先輩たちから引き継いできた「ゼッター現場主義」を守り、後輩たちにつなぐことができた。	文化学部	長野 優来
いけいけサロン活動 (12名)	コロナ禍の影響を受けながらも、『いけいけサロン活動』として池地域の町内会活動に貢献した。特にコロナ禍の活動においては、住民と学生が安全かつ楽しめる方法を模索し、当初想定していたオンラインではなく、定期的なチラシの配布と住民・学生双方の日常を綴る交換日記のやりとりという新たな交流方法を見出すなど、活動継続だけでなく、今後の活動活動の発展を支えるものとなった。加えて、活動を継続するため、コロナ禍に加入したメンバーに対し、自分たちの経験から得たものを伝え、本団体の活動を継続するため、親身になって支えた。	看護学部	池田 侑香 井上 実優 白井 萌愛 杉本 早那 高坂 菜未 銅木 暖々美 長谷川 佳南 花澤 ひとみ 堀 春海 望月 まなみ 森田 菜月 矢野 花恋
グローバルクラブ (4名)	コロナ禍の影響を受けながらも、グローバルクラブとして高知県で暮らす外国人の課題解決や国際交流を続けた。本学生たちが2回生の時には、コロナウイルス感染症拡大により、問題解決のための行動を行うまでには至らなかったが、高知県国際交流協会を通じて情報収集を実施。また、3回生時には、高知県国際交流協会を通じて在留外国人のゴミの分別の課題を把握、その課題に対し、彼らの祖国の文化や背景を学びながら共に考えていくためのワークショップを高知大学学生と共同で開催した。	看護学部	尾崎 百桃 見田 美月 曾木 杏香 藤本 涼



団体名(人数)	功績	学部	氏名
健援隊 (19名)	直接地域に出向く活動が制限される中、地域とのつながりを継続する方法を工夫するとともに新たな活動の場を開拓し、「健援隊」の活動を行った。新たな試みとして、活動拠点の地区住民に対し、健康知識の提供及び自主的な健康管理を目的とした紙媒体の作成を行った。また、新たな活動場所として高知市内の保育園を開拓し、保育園児のセルフケアを育む活動、具体的には発達段階に応じた健康便りの作成を行った。いずれの活動も対象者のセルフケアにつながった。	看護学部	浅木 優里 大久保 萌 大坂 菜摘 岡下 晴音 梶原 妃奈乃 数井 千晴 加茂 樹奈 北添 早彩 小林 あい 芝田 華花 下村 真白 曾木 杏香 田辺 優 中村 果穂 春名 美愛 福田 瑞香 船木 綾音 松倉 由依 吉田 裕莉華
室戸ボランティアリーダー (3名)	室戸ボランティアリーダーとして小学生を対象とした教育的活動にボランティアとして参加するだけでなく、施設運営者の指導の下、学生が自主企画したイベントやボランティアリーダーの育成研修の企画・実施などに1, 2年生時から現在に至るまで、継続的に参画し、メンバーを先導し、看護学部の学生として授業等で学んだことを活かし、その教育目標の達成に貢献してきた。また、新型コロナウイルス感染症拡大下にあっても先輩達から引き継がれた運営方法や技術を途絶えさせない様、活動を工夫し、安全に活動できるように取り組み、後輩の主体的な活動継続につながった。	看護学部	大森 三那子 野田 有希 横山 瑠奈
個人による顕著な表彰	卒業後、地方自治体で福祉職として勤務することを旨し、社会福祉学部で社会福祉士国家資格取得のための学業に勤しんでいる。その学業のかたわら、まんが創作活動を地道に継続し、集英社が主催する新人漫画賞で佳作を受賞した。	社会福祉学部	香川 あづき
個人による顕著な表彰	コロナウイルス感染症によって生活困窮となった学生に対する食糧支援ボランティアを1年以上にわたって行った。その他、高知市内の高齢者の生活支援を担うNPOにもボランティアとして参加、また、「Pシスターズ」の代表を2年間務め、持続可能な地域づくりに向けて、住民の想いを聞き、その地域ならではの「良さ」を生かしながら、地域の生活課題解決に向けて、地域活動に精力的に取り組むなど、窮状を訴えにくい方々の声に真摯な姿勢で向き合った。	社会福祉学部	三谷 紗蘭

団体名(人数)	功績	学部	氏名
イケあい地域災害学生ボランティアセンター (5名)	『イケあい地域災害学生ボランティアセンター』の第9期幹部として、精力的に活動を継続し、後輩にバトンをつないだ。先輩の元で一連の活動の準備や実施を経験し、2回生として活動の中核を担った令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い社会活動が制限される中、ネット環境を駆使した活動に参加したり、度重なる参加予定行事の中止にもめげず、地域の防災イベントに何とか学生が応援参加できるよう幹部として企画書を作成し続け、後輩が参加・活躍できる場の獲得に尽力した。	健康栄養学部	小川 晶世 武内 真優 長谷川 和美 前川 希 松本 あすか

#### (6) サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
イタリア ヴェネツィアカ・フォスカリ大学	Campeol Alessandra Favretto Christian Fuggini Michelle Anzil Irene Mantovani Lara Poiesi Leonardo Pozzo Andrea Trioli Chiara	2022年度 国際日本学プログラム 2022年9月12日～12月9日	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学	曾丞緯 張瑋珊	2022年10月1日～2023年3月6日 中国語教育実習	高知県立大学 (文化学部)

## 6 SD・FD活動実施状況

### (1) 全学SD・FD

区分	内容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主催	共催
S D	第2回SD研修会 「高知県の中山間地域の”いま”を聴く～10年ぶりの集落実態調査の結果から～」	安藤 優(高知県中山間振興・交通部中山間地域対策課 課長)	令和4年6月30日	50	高知県立大学	
	第3回SD研修会 「SDGsと大学の役割」	伊藤 恭彦(名古屋市立大学 副学長 教授)	令和4年12月15日	57	高知県立大学	
S F D D	2022年度SD・FD研修(情報セキュリティ研修) 「情報セキュリティ対策実践 基礎から学ぶセキュア環境構築・運用入門編」e-learning		令和4年12月16日～ 令和5年2月17日	114		
F D	第28回学際的交流サロン 「栄養アセスメント:画像認識による栄養価計算アプリケーションの有用性を検討する」	荒牧 礼子(健康栄養学部 准教授)	令和4年6月13日	52	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第29回学際的交流サロン 「戦略的研究推進プロジェクトの成果報告会」 ①新型コロナウイルス禍における人々の健康維持に向けたケア方略 ②高幡保健医療圏における精神障害に対応した包括的支援マネジメントモデルの開発	①渡邊 聡子(看護学部 教授) ②瀧 めぐみ(看護学部 助教)	令和4年7月19日	52	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第30回学際的交流サロン 「コーパスに見る新たな英語表現——形容詞表現を中心に」	金澤 俊吾(文化学部 准教授)	令和4年10月12日	39	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	第31回学際的交流サロン 「リハビリ・カレッジ高知の取り組みを通して、高知に共同創造(Co-production)の芽を育む」	玉利 麻紀(社会福祉学部 助教)	令和4年12月21日	29	学術研究戦略委員会	高知県立大学FD委員会
	全学FD研修会 テーマ:パフォーマンス課題におけるルーブリックの実践例紹介	菊池 直人(文化学部 准教授) 大川 宣容(看護学部 教授) 森本 紗磨美(看護学部 助教) 田中 雅美(看護学部 助教) 神家 ひとみ(看護学部 助教) 河内 康文社会(社会福祉学部 准教授) 廣内 智子(健康栄養学部 講師)	令和5年3月7日	71		

### (2) 部局別SD・FD

部署	内容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主催	共催
文 化 学 部	「基礎演習」および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員10名	令和4年7月25日	24	学部FD委員会	
	学術研究分野における個人情報保護の規律の考え方	菊池 直人(文化学部 准教授)	令和5年2月13日	24	人権委員会	学部FD委員会
看 護 学 部	高次リテラシーを育成するためのFDの検討		令和4年6月15日	37	学部FD委員会	
	マザーマップを活用した教員の主体的な学びの支援	藤代 知美(FD委員 准教授)	令和4年6月2日	5	学部FD委員会	
	臨地実習における学生の主体的な学びを言語化するレポート作成の指導	大川 宣容(臨床実習委員長 看護学部 教授)、池添 志乃(看護学部 教授)	令和4年11月8日	21	学部FD委員会	
	実習ルーブリックの活用を通じた教育評価の検討		令和5年3月9日	42	学部FD委員会	
	看護を語る会		令和5年3月9日	41	学部FD委員会	
	PDPプログラム1 ポストコロナ時代と「大学」の(時間)	吉見 俊哉(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)	令和4年6月1日	16	学部FD委員会	
PDPプログラム2 公立大学政策とその将来像	中田 晃(一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長)	令和4年6月8日	19	学部FD委員会		

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
看護学部	PDPプログラム3 日本の科学研究力失速の現状とその要因	豊田 長康(鈴鹿医療科学大学学 長・三重大学名誉教授)	令和4年6月15日	24	学部FD委員会	
	PDPプログラム4 学生への経済的支援の現状と課題	小林 雅之(桜美林大学総合研究 機構教授)	令和4年6月22日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム5 学習と教育の科学 ー認知理論から大学の授業改革を考えるー	市川 伸一(東京大学)	令和4年6月29日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム6 認知科学と学習の原理・応用	佐伯 胖(信濃教育会教育研究所 長、東京大学名誉教授)	令和4年7月6日	11	学部FD委員会	
	PDPプログラム7 アカデミック・ライティングを指導する ー現状の分析と指導法の提案ー	井下 千以子(桜美林大学)	令和4年7月13日	19	学部FD委員会	
	PDPプログラム8 学びのユニバーサルデザイン(UDL)で 幅広い教育ニーズに対応できる講義を	川俣 智路(北海道教育大学教職 大学院)	令和4年7月20日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム9 「しまった!!」とならないために ーICT時代の教育で押さえておきたい法ー	三石 大、金谷 吉成(東北大学)	令和4年7月27日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム10 授業デザインとシラバス作成	串本 剛(東北大学)	令和4年8月3日	24	学部FD委員会	
	PDPプログラム11 インストラクショナルデザインへの誘い	鈴木 克明(熊本大学)	令和4年8月24日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム12 Transforming Classrooms for Active and Collaborative Learning	Andy Leger(カナダ・クイーンズ大 学)	令和4年8月31日	8	学部FD委員会	
	PDPプログラム13 学力形成と教育マネジメントの役割 ー金沢工業大学の実践ー	西村 秀雄(金沢工業大学)	令和4年9月7日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム14 学生が成長する環境とは何か ーボーダーフリー大学の現実をふまえてー	葛城 浩一(香川大学)	令和4年9月14日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム15 学習効果を高めるICTの活用法 ～反転授業も含めた授業設計～	向後 千春(早稲田大学)	令和4年9月21日	14	学部FD委員会	
	PDPプログラム16 授業づくり: 準備と運営	邑本 俊亮(東北大学)	令和4年9月28日	14	学部FD委員会	
	PDPプログラム17 Designing Your Courses for More Significant Learning	Dee Fink(高等教育コンサルタント)	令和4年10月5日	10	学部FD委員会	
	PDPプログラム18 世界の高等教育政策	杉本 和弘(東北大学)	令和4年10月19日	21	学部FD委員会	
	PDPプログラム19 グローバル化する高等教育における 国際化戦略・政策・実践	太田 浩(一橋大学)	令和4年10月26日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム20 研究評価の手法とマネジメント	林 隆之(大学改革支援・学位授与 機構)	令和4年11月2日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム21 大学教育改革のトレンドと日本が 目指すべき21世紀の学士課程教育像	小笠原 正明(北海道大学)	令和4年11月16日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム22 大学教員の役割とキャリアステージ	羽田 貴史(東北大学)	令和4年11月30日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム23 Ethical Conduct in Research Supervision - Principles, Policies, and Procedures	Gabriele Lakowski(メルボルン大 学)	令和4年12月7日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム24 大学教育論: 教養と専門の二項対立を越えて	小笠原 正明(北海道大学名誉教 授)	令和4年12月14日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム25 歴史から見た大学: 中世から現代まで	寺崎 昌男(立教学院)	令和5年1月18日	16	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
看護学部	PDPプログラム26 学術分野の男女共同参画とポジティブ・アクションの課題—憲法学研究者としての歩みにふれて	辻村 みよ子(東北大学)	令和5年2月1日	16	学部FD委員会	
	PDPプログラム27 コーチングを活用した院生指導	出江 紳一(東北大学)	令和5年2月15日	20	学部FD委員会	
	PDPプログラム28 リカレント教育の今、そしてコロナ後に果たすべき大学の役割	出江 紳一(東北大学)	令和5年2月22日	24	学部FD委員会	
	PDPプログラム29 大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望	乾 喜一郎(白百合女子大学非常勤講師)	令和5年3月1日	15	学部FD委員会	
	PDPプログラム30 課題を考える—大学教育の課題とデータサイエンス学部の挑戦	竹村 彰通(滋賀大学)	令和5年3月8日	17	学部FD委員会	
	PDPプログラム31 発表倫理を考える	山崎 茂明(愛知淑徳大学)	令和5年3月22日	15	学部FD委員会	
	青年期・成人期への移行期の発達をふまえた教育	西垣 順子(大坂市立大学 大学教育研究センター 教授)	令和4年7月2日	17	高知看護教育研究会	
	学生と教員のインタラクティブなやり取り	高畑 貴志(高知大学 学び創造センター准教授)、杉田 郁代(高知大学 学び創造センター准教授)	令和4年12月12日	1	高知看護教育研究会	
社会福祉学部	外部資金獲得に向けた申請書作成	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和4年5月23日	19	学部FD委員会	
	高次脳機能障害の症状と対策～基本知識の基礎の基礎～	宮本 寛(南国中央病院副院長)	令和4年10月24日	23	学部FD委員会	
	東日本大震災の教訓と地域再生—サポートセンターの実績とその後—	芳賀 潤(岩手県大槌町らふたあビルズ理事長)	令和4年11月10日	16	学部FD委員会	
	ループリック評価の分析と検討	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和4年12月26日	15	学部FD委員会	
	論文の書き方に関する研修会	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和5年2月10日	14	学部FD委員会	
	リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み	羽田 貴史(東北大学 教授)	令和5年2月27日	18	学部FD委員会	
	研究を生み出すしつけ作り—ゼミのいろいろ—	宮上 多加子(社会福祉学部 教授)	令和5年3月3日	16	学部FD委員会	
健康栄養学部	食物アレルギーへのアプローチ～研究の軌跡～	竹本 和仁(健康栄養学部 助教)	令和4年10月24日	13	学部FD委員会	
	栄養アセスメント:画像認識による栄養価計算アプリケーションの有用性を検討する	荒牧 礼子(健康栄養学部 教授)	令和4年11月21日	13	学部FD委員会	
	合同災害訓練の振り返り及び情報共有	廣内 智子(健康栄養学部 講師)、島田 郁子(健康栄養学部 准教授)	令和4年12月12日	14	学部FD委員会	
地域学実習II 地域学実習IIの理想と現実	一色 健司(地域教育研究センター教授)	令和5年2月28日	5	センターFD委員会		

### (3)全学人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
全学	第1回SD研修会 「事例から考えるハラスメント」	高木 佳代子(愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 課長)	令和4年5月30日	107	高知県立大学	高知県立大学人権委員会

#### (4) 部局別人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
学文 部化	学術研究分野における個人情報保護の規律 の考え方	菊池 直人(文化学部 准教授)	令和5年2月13日	24	学部人権委員 会	学部FD委員会
看 護 学 部 ・ 研 究 科	看護学部第1回人権研修 ハラスメント		令和4年5月18日	35	学部人権委員 会	
	看護学部第2回人権研修 キャンパス・ハラスメ ント		令和5年2月8日 令和5年3月15日	48	学部人権委員 会	
社社 会会 部福	高次脳機能障害当事者の不安と生活の不自由、 そしてその不自由を克服する工夫	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)、 吉良 正輝(人間生活学研究科博士 前期課程)	令和5年1月23日	19	学部人権委員 会	学部FD委員会
事 務 局	令和4年度事務職員向け人権研修会 ～テーマ～ 「大学のハラスメント防止対策について」	丸山 史晃(MS&AD インターリスク 総研株式会社危機管理コンプライ アンスグループ 上席コンサルタント)	令和5年2月15日～ 令和5年3月17日	41	事務局人権委 員会	

#### (5) 学外研修

部 署	内 容	期 間	参加者数 (人)	主 催
学文 部化	令和4年度公立大学の研究活動促に資するた めの勉強会 アドバンスセミナー(第2回)～海 外からの研究者招聘編～	令和4年7月27日	1	一般社団法人公立大学協会
看 護 学 部	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	令和4年度公立大学の研究活動促に資するた めの勉強会 アドバンスセミナー(第2回)～海 外からの研究者招聘編～	令和4年7月27日	1	一般社団法人公立大学協会
	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月29日	2	一般社団法人公立大学協会
社社 会会 部福	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月15日	1	一般社団法人公立大学協会
養健 学康 部栄	授業について考えるランチセミナー	令和4年6月9日～令和5年2月16日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
地 域 ン 教 育 タ ー 研究 セ	教学マネジメントに関するセミナー	令和4年7月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	教学IR実践のヒント(前編) 「教学IRを活用した内部質保証の取組事例～ 広島市立大学の取組を基に～」	令和4年11月30日	1	一般社団法人公立大学協会
事 務 局	初任者研修①	令和4年4月1日	1	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和4年4月8日	1	高知県公立大学法人
	初任者研修③	令和4年4月15日	1	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修(基礎①)	令和4年4月14日	1	高知県
	新規採用職員研修(基礎①) (受講方法:オンライン)	令和4年4月21日～5月20日	1	高知県
	公立大学に関する基礎研修 (受講方法:オンライン)	令和4年5月10日	2	一般社団法人公立大学協会

部 署	内 容	期 間	参加者数 (人)	主 催
事 務 局	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム 研修(新任職員) (受講方法:オンライン)	令和4年5月12日～5月14日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	新規採用職員研修(基礎②) (受講方法:オンライン)	令和4年5月16日～6月16日	1	高知県
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資する ための勉強会(第1回) (受講方法:オンライン)	令和4年5月26日	3	一般社団法人公立大学協会
	避難所運営研修(第1回)	令和4年5月31日	54	高知県立大学
	新規採用職員研修(基礎②)	令和4年6月2日	1	高知県
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資する ための勉強会(第2回) (受講方法:オンライン)	令和4年6月15日	4	一般社団法人公立大学協会
	新規採用職員研修(基礎③)	令和4年6月24日	1	高知県
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資する ための勉強会(第3回) (受講方法:オンライン)	令和4年7月13日	4	一般社団法人公立大学協会
	避難所運営研修(第2回)	令和4年7月11日・7月14日	63	高知県立大学
	避難所運営研修(第3回)	令和4年8月22日・9月2日	49	高知県立大学
	令和4年度公立大学の研究活動促進に資する ための勉強会 アドバンスセミナー(第2回) ～海外からの研究者招聘編～ (受講方法:オンライン)	令和4年7月27日	4	一般社団法人公立大学協会
	教学IRにおけるGoogle Workspaceの利用事例 ～名桜大学の取り組み～ (受講方法:オンライン)	令和4年7月29日	3	一般社団法人公立大学協会
	タイムマネジメント入門講座 (受講方法:オンライン)	令和4年9月12日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	SPODフォーラム2022 (受講方法:オンライン)	令和4年8月24日～8月26日	7	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	「次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)」開 放講義	令和4年9月21日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	避難所運営研修(第4回) (受講方法:対面・オンライン)	令和4年9月27日	48	高知県立大学
	避難所運営研修(第5回)	令和4年11月16日・21日・24日	54	高知県立大学
新規採用職員研修(基礎④)	令和4年11月24日	1	高知県	